

中学生の「税についての作文」優秀作品 『十日町税務署長賞』

期待を込めて

新潟県立 津南中等教育学校 3年
太島心菜

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

四月、真新しいピカピカの教科書を裏返し名前を書く。そのとき必ず目に入るのが、この言葉だった。見慣れたこの、言葉について、どんな想いが込められているか考えたことがあっただろうか。

教科書で遊んだり、落書きしている人を見かけたことがある。実際に、私もしていた。無料だからいいや、そんな気持ちで、少し折れても汚れても特に気にしなかった。あるとき、教科書をなくした友達がいた。先生にもう一冊くれるように頼んでいたが、先生は「教科書は税金で配られているから一人一冊しかないのよ」と言っていた。本屋でも教科書は売っているが、一冊千円ほどする。そのとき改めて、税金のすごさや重さ、ありがたさを実感した。

アフリカやアフガニスタンの人々は、税金を払っているのに教科書が配られなかったり、学校に行けない子供達がたくさんいる。それに対して日本は、九年間教科書が配られ続け、学校に行くことも当たり前だ。SDGs 問題「質の高い教育をみんなに」日本は、これを達成できている国と言えるだろう。さらに、街並みは整っており、病院に行って治療を受けることもできる。公園で悠々と遊ぶこともできる。これらはすべて、税金のおかげだ。

しかし、この税金はどこからきているのだろうか。私たちの身の回りには、消費税や住民税、所得税など様々な税がある。これは、お父さんやお母さん、ましてや全国民が汗水流して働いた中のお金だ。そのお金が、私たちの九年間分の教科書代に充てられている。計算すると、一人あたり約八六二万円にもなる。これを日本の子供達全員分を税が負担しているとなると、ものすごい額になる。

教科書は、決して無料ではない。私たちのために年々積み重ねられている、多額の税金で成り立っている。そんな税金で支えられている教科書もあと半年で無料ではなくなってしまう。なぜなら、高校は義務教育ではないからだ。教科書一冊一冊の重み。それを理解することができた時には、あの言葉のように私も税を通して社会の役に立てていればと思う。中学生である今はまだ消費税を払う以外にできることはないけど、少しでも何かの役に立てればと思う。

教科書の裏に書かれた、小さなメッセージ。日本の未来を担う子供達へのメッセージ。私はその言葉の期待に応えられるような人に、なりたい。